

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 東北財務局長

【提出日】 2021年5月26日

【事業年度】 第2期(自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)

【会社名】 株式会社薬王堂ホールディングス

【英訳名】 YAKUODO HOLDINGS Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 西郷 辰弘

【本店の所在の場所】 岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第3地割426番地

【電話番号】 019-697-8480 (代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理部長 小笠原 康浩

【最寄りの連絡場所】 岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第3地割426番地

【電話番号】 019-697-8480 (代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理部長 小笠原 康浩

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第 1 期	第 2 期
決算年月		2020年 2 月	2021年 2 月
売上高	(百万円)	102,017	110,535
経常利益	(百万円)	4,295	5,306
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	3,122	3,290
包括利益	(百万円)	3,120	3,290
純資産額	(百万円)	22,168	25,025
総資産額	(百万円)	50,244	60,637
1株当たり純資産額	(円)	1,123.03	1,267.73
1株当たり当期純利益	(円)	158.19	166.69
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	—	—
自己資本比率	(%)	44.1	41.3
自己資本利益率	(%)	15.0	13.9
株価収益率	(倍)	14.0	15.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	5,771	5,210
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△5,254	△4,981
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	685	6,949
現金及び現金同等物の 期末残高	(百万円)	1,958	9,137
従業員数 〔ほか、平均臨時雇用人員〕	(名)	780 〔1,998〕	862 〔2,176〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は、2019年9月2日設立のため、それ以前に係る記載はしておりません。

4. 第1期連結会計年度の連結財務諸表は、単独株式移転により完全子会社となった株式会社薬王堂の連結財務諸表を引き継いで作成しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第1期	第2期
決算年月		2020年2月	2021年2月
営業収益	(百万円)	618	825
経常利益	(百万円)	468	544
当期純利益	(百万円)	457	512
資本金	(百万円)	100	100
発行済株式総数	(株)	19,740,219	19,740,219
純資産額	(百万円)	21,055	21,133
総資産額	(百万円)	21,125	21,200
1株当たり純資産額	(円)	1,066.65	1,070.59
1株当たり配当額 (内、1株当たり中間配当額)	(円)	22.00 (-)	23.00 (-)
1株当たり当期純利益	(円)	23.16	25.94
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-
自己資本比率	(%)	99.7	99.7
自己資本利益率	(%)	2.2	2.4
株価収益率	(倍)	95.8	98.8
配当性向	(%)	95.0	88.7
従業員数 〔ほか、平均臨時雇用人員〕	(名)	- [-]	- [-]
株主総利回り	(%)	-	117.6
(比較指標：配当込みTOPIX)	(%)	-	126.4
最高株価	(円)	2,790	2,913
最低株価	(円)	2,074	1,860

- (注) 1. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 当社は、2019年9月2日設立のため、それ以前に係る記載はしておりません。
4. 第1期は、2019年9月2日から2020年2月29日までの6カ月間になっております。
5. 第1期の株主総利回りは、2019年9月2日に単独株式移転により設立されたため、記載しておりません。
6. 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2 【沿革】

年 月	概 要
2019年9月	株式会社薬王堂が単独株式移転により当社を設立し、東京証券取引所市場第一部に株式を上場（株式会社薬王堂は2019年8月に上場廃止）。

また、当社の完全子会社となった株式会社薬王堂の沿革は以下のとおりであります。

株式会社薬王堂の沿革

年 月	概 要
1978年4月	現代表取締役社長西郷辰弘と現代表取締役副社長西郷喜代子が、岩手県紫波郡都南村永井（現盛岡市永井）において、都南プラザドラッグを創業。
1991年6月	有限会社薬王堂を組織変更し、株式会社薬王堂（資本金10百万円）として設立。
1992年8月	岩手県盛岡市に県内初の150坪型ドラッグストア「津志田店」を開店。（2010年9月閉店、2012年8月300坪型移転オープン）
1995年3月	岩手県花巻市に県内初の300坪型ドラッグストア「花巻南店」を開店。
1996年3月	発注業務の合理化を図るためEOS「オンライン発注システム」を導入。
1996年12月	岩手県紫波郡に県内初の450坪型スーパードラッグストア「矢巾店」を開店。 本社を岩手県紫波郡矢巾町大字南矢幅第7地割82番地1（現 445番地）に移転。
1999年3月	有限会社薬王堂販売（100%子会社、資本金3百万円）を岩手県盛岡市中野一丁目16番5号に設立。
1999年8月	販売業務の合理化を図るためPOS（販売時点情報管理システム）レジを全店に導入。
2000年3月	物流システム効率化のため、岩手県紫波郡に薬王堂物流センター（岩手センター）を開設。（2005年9月移転）
2000年5月	宮城県栗原市に宮城県進出第1号店としてイオンタウンショッピングセンター内に「金成店」を開店。（2013年7月移転）
2000年7月	秋田県横手市に秋田県進出第1号店として300坪型ドラッグストア「横手店」を開店。
2000年10月	調剤併設型店舗第1号店として岩手県紫波郡の「矢巾店」内に調剤薬局を増設開店。
2002年8月	青森県八戸市に青森県進出第1号店として300坪型ドラッグストア「八戸新井田店」を開店。
2005年9月	岩手県紫波郡に200店舗まで対応可能な大型物流センターを開設。（2015年10月閉鎖） 株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場。
2005年10月	岩手県盛岡市に日配物流センターを開設。（2013年4月閉鎖）
2007年9月	本社を岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第3地割242番地1（現 426番地）に移転。
2007年10月	岩手県盛岡市に600坪型スーパードラッグストア「盛岡厨川店」を開店。
2008年7月	山形県山形市に山形県進出第1号店として300坪型ドラッグストア「山形馬見ヶ崎店」を開店。（2014年10月閉店）
2011年6月	岩手県紫波郡に調剤専門薬局「西徳田調剤」を開設。
2012年6月	有限会社薬王堂販売を吸収合併。
2013年4月	岩手県花巻市、宮城県岩沼市他3拠点で低温物流センターを開設。
2013年11月	東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）から市場第二部へ市場変更。
2014年10月	東京証券取引所市場第一部銘柄に指定。
2015年10月	岩手県花巻市、宮城県白石市にDC型物流センター、岩手県紫波郡に食品ドライセンターを開設。
2016年7月	宮城県岩沼市に食品ドライセンターを開設。
2017年1月	プリペイド機能付きポイントカード「WA!CA（ワイカ）」を導入。
2017年10月	セルスペクト株式会社とヘルステック・ビッグデータ利活用事業に関する協業契約を締結。
2018年3月	福島県福島市に福島県進出第1号店として300坪型ドラッグストア「福島太平寺店」を開店。
2018年4月	マーケティング事業等の子会社としてMedica株式会社を設立。

3 【事業の内容】

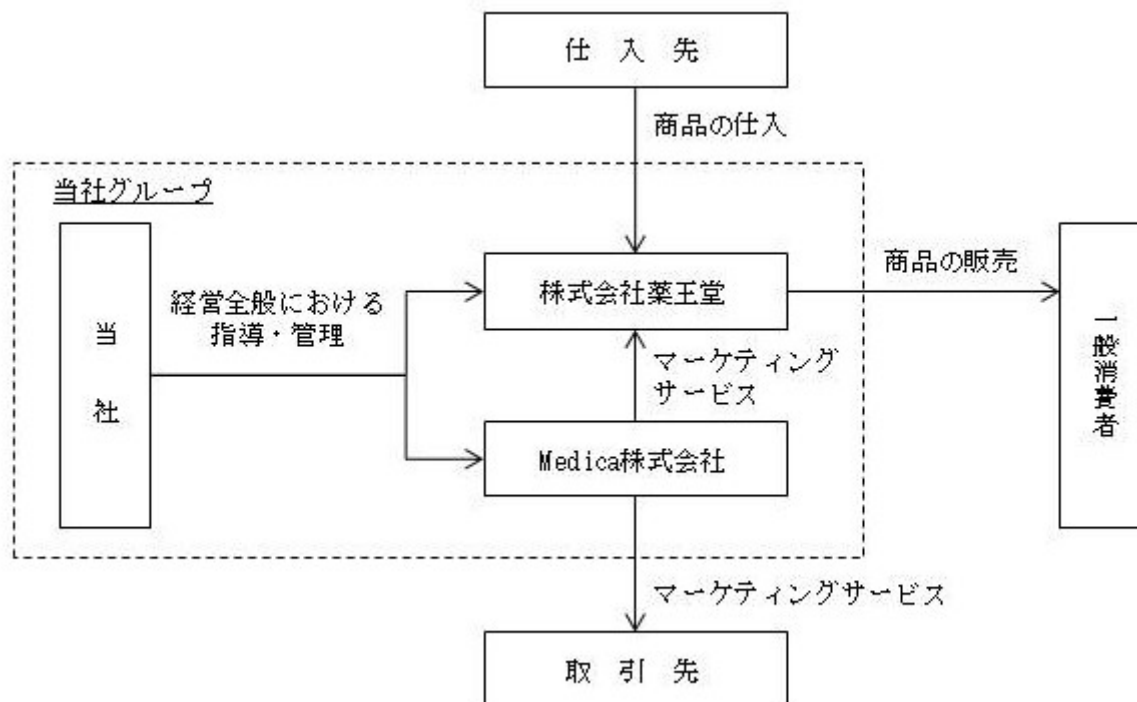
当社は、持株会社として傘下グループ会社の経営管理及びこれに附帯する業務を行っております。

なお、当社は、有価証券の取引等の規制に関する内閣府令第49条第2項に規定する特定上場会社等に該当しており、これにより、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準については連結ベースの数値に基づいて判断することとなります。

当社グループは当社及び連結子会社2社から構成されており、医薬品、化粧品、食料品及び日用雑貨等、生活関連商品を扱う小売業を主たる業務としております。

また、当社グループはドラッグストア事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいためセグメント情報の記載を省略しております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社薬王堂	岩手県紫波郡 矢巾町	300	ドラッグストア事業	100.0	経営指導、資金の貸付。 役員の兼任あり。
(連結子会社) Medica株式会社	岩手県紫波郡 矢巾町	3	マーケティング事業	100.0	経営指導。

- (注) 1. 上記子会社は、有価証券届出書または有価証券報告書を提出していません。
 2. 株式会社薬王堂は、特定子会社に該当しております。
 3. 株式会社薬王堂は、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く。）の連結売上高に占める割合が10%を超えておりますが、連結売上高に占める当該連結子会社の売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く。）の割合が90%を超えておりますので主要な損益情報等の記載を省略しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2021年2月28日現在

区 分	従業員数(名)
本 部	121 〔 98〕
店 舗	741 〔 2,078〕
合 計	862 〔 2,176〕

(注) 1. 当社グループは、ドラッグストア事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいことから、セグメント別の従業員数は記載しておりません。

2. 従業員数は就業人員であり、〔 〕書は外書きで臨時社員（契約社員・パート・アルバイト）（1日8時間換算）の2021年2月28日までの1年間におけるその平均雇用人員を記載しております。

(2) 提出会社の状況

当社は純粋持株会社であるため、記載を省略しております。

(3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は「U Aゼンセン薬王堂労働組合」と称し、2007年2月4日に従業員の労働条件の向上と健全な労使関係の維持発展を目的として結成されました。2021年2月28日現在の組合員数は4,382名であり、U Aゼンセンに加盟しております。なお、労使関係については円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

ドラッグストア業界は、各種規制緩和に伴う異業種参入など、小売業全体による出店競争や価格競争が進み、経営環境は一段と厳しさを増すものと思われま

す。このような状況の中、当社グループは「地域の皆様の美と健康と豊かな暮らしに貢献する」ことを使命とし、経営理念であります「お客様に喜んで戴ける店づくり」のもと、小商圏へのドミナント出店を積極的に進めてまいります。

① 出店戦略

商圏人口7千人で成立する、安さと利便性に専門性を兼ね備えた「小商圏バラエティ型コンビニエンスドラッグストア」をドミナント展開し、エリアでのシェア拡大を図ってまいります。

② 商品戦略

医薬品や化粧品の専門性に加え、食料品や日用品などの生活必需品を取り揃え、身近な場所で、より低価格で商品を提供することに取り組んでまいります。

またプライベートブランド商品の育成にも注力してまいります。

③ 販売戦略

お客様が商品を自由に選べるセルフサービスを基本としつつ、お客様のニーズにお応えできる専門知識と接遇の向上を図り、ライトカウンセリングとフレンドリーサービスを充実させてまいります。

また各種キャッシュレス決済サービスに対応し、お客様の利便性の向上に取り組んでまいります。

④ 人事戦略

新卒の定期採用と中途社員の計画採用、またパート社員の戦力化により、バランスの取れた組織体制を実現するとともに、女性管理職の積極登用に取り組み、組織の活性化を図ってまいります。一方で、成果主義を基本とした公正で公平な処遇を行い、ワークライフバランスにも配慮し、従業員のモチベーションの向上に努めてまいります。

⑤ 物流戦略

店舗網の広域化に合わせた物流インフラの整備を進めるとともに、店舗オペレーションと一体化した効率的な物流システムを構築し、サプライチェーンの機能強化を図ってまいります。

また庫内業務や配送業務の生産性向上を図り、物流センターの機能最大化に取り組んでまいります。

⑥ 情報戦略

顧客サービスの向上や業務の効率化を目的としたシステム投資を計画的に行い、外部環境の変化に柔軟に対応できる機能構築に取り組んでまいります。

⑦ 財務戦略

企業価値の最大化に向け、ローコスト経営の実践とともに、投資効率向上によるキャッシュフローの獲得に取り組み、創出したキャッシュは、戦略的な新店投資に優先的に配分しながら、安定的・継続的な配当還元を目指してまいります。

⑧ コーポレートガバナンス

コンプライアンスの徹底、リスク管理及び内部統制システムの機能充実、またコーポレートガバナンス・コードへの継続的な取り組み等により、更なるガバナンス強化を図ってまいります。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。また、以下の記載は当社グループの事業等に関するリスクをすべて網羅するものではありません。

(1) 法的規制について

- ① 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」（以下「医薬品医療機器等法」という。）等による規制について

当社グループは、「医薬品医療機器等法」上の医薬品等を販売するにあたり、各都道府県の許可、登録、指定、免許及び届出を必要としております。また、食品、酒類等の販売については、食品衛生法等それぞれ関係法令に基づき、所轄官公庁の許可、免許、登録等を必要としております。

今後、当該法令等の改正により当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

2021年2月28日現在

許認可等の名称	有効期限	関連する法令	許認可等の交付者
医薬品販売業許可	6年	医薬品医療機器等法	各都道府県知事又は所轄保健所長
薬局開設許可	6年	医薬品医療機器等法	各都道府県知事又は所轄保健所長
管理医療機器販売届出	無期限	医薬品医療機器等法	各都道府県知事
高度管理医療機器等販売業許可	6年	医薬品医療機器等法	各都道府県知事
保険薬局指定	6年	健康保険法	各所轄厚生局長
毒物劇物一般販売業登録	6年	毒物及び劇物取締法	各都道府県知事又は所轄保健所長
農薬販売業届出	無期限	農薬取締法	各都道府県知事
麻薬小売業免許	(注)	麻薬及び向精神薬取締法	各都道府県知事

(注) 「麻薬小売業免許」の有効期限は、免許開始日の翌々年の12月31日までであります。

- ② 医薬品の販売規制緩和について

当社グループは、医薬品販売業許可及び薬局開設許可等の許可を受けて営業しております。2009年6月の旧薬事法の改正に伴い、リスクの低い医薬品については新設の登録販売者による販売が可能となったことや、2014年6月の旧薬事法の改正に伴い、インターネット販売が解禁されたことにより、他業種が医薬品販売に参入する障壁が低くなっております。今後医薬品の販売規制がさらに緩和され、一般小売店における販売の自由化が進んだ場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

- ③ 新規出店及び既存店舗増床に関する規制について

2000年6月1日施行の「大規模小売店舗立地法」（以下、「大店立地法」という。）では、店舗面積が1,000㎡超の店舗を対象に、政令指定都市の市長又は都道府県知事への届出を義務付けており、地域住民等への十分な説明、交通渋滞、駐車場、騒音、廃棄物施設、荷捌き施設のスペース等、出店地域における生活環境に関する項目を審査対象としております。このため、新規出店及び既存店舗の増床等において、「大店立地法」又は各自治体の規制を受ける可能性があり、この場合、当社グループの出店政策に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 出店政策について

当社グループは、2021年2月28日現在、東北6県（岩手県・宮城県・青森県・秋田県・山形県・福島県）においてドラッグストア 321店舗（うち調剤併設型 3店舗、調剤専門薬局 2店舗）を運営しております。

最近の当社グループの業容及び収益拡大には店舗数の増加が大きく寄与しております。今後も店舗数の増加を図っていく方針ではありますが、既述の法的規制や競合店の出店、経済情勢の変動等さまざまな偶発的要因により計画どおりの出店ができない場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(3) 資格者の確保について

2009年6月の改正薬事法施行により、薬剤師及び登録販売者の確保が重要となり、登録販売者については積極的に社内育成を行っております。しかしながら、これら資格者の確保が計画どおりにできない場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 個人情報について

当社グループは、個人情報取扱事業者として店舗及び調剤業務で取り扱う顧客情報を保有しております。当社グループといたしましては、業務上これらの情報を閲覧又は保持する必要があるため、顧客情報の取り扱いに関する規程を整備し、従業員の情報管理教育を徹底することにより、情報漏洩を未然に防ぐ措置を講じております。しかしながら、このような対策にもかかわらず、万一情報漏洩が発生した場合、当社グループに対する信頼の失墜や損害賠償請求により、当社グループの財政状態及び業績に影響を与える可能性があります。また、将来的に顧客情報保護体制の整備のためのコストが増加する可能性があります。

(5) 災害等に関するリスク

当社グループの出店エリアにおきまして、大地震や台風等の災害等が発生した場合には、店舗設備等に損害が発生する可能性があります。また、災害等により販売活動や流通経路等に支障が生じる場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(6) 固定資産の減損について

当社グループは、原則として、各店舗を独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位と捉え、減損会計を適用し、減損の兆候を適時判断しておりますが、外的環境の急激な変化等により収益性が著しく低下した場合、減損損失を計上する可能性があり、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(7) 新型コロナウイルス感染症の影響について

新型コロナウイルス感染症の当社グループへの影響につきましては、感染拡大や長期化に伴い、店舗の休業やサプライチェーンの停滞、消費の低迷などが懸念され、今後の経過によっては、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

① 財政状態及び経営成績の状況

イ. 経営成績

当連結会計年度における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で経済活動の制限、個人消費の落ち込みなど厳しい状況が続いており、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

当社グループが属するドラッグストア業界においては、巣籠需要などの影響により日用品や食品においてはやや好調に推移したものの、予防意識の高まりや外出自粛などによるヘルスケアや化粧品の落ち込みが続いており、感染症の影響で先行きは不透明な状況となっております。

このような状況の中、当社グループは、販売価格や品揃えの強化を図り、来店客数及び買上点数の増加に取り組むとともに、小商圏ドミナント出店を推進し、ドラッグストアを岩手県6店舗、青森県5店舗、秋田県6店舗、宮城県2店舗、山形県1店舗、福島県7店舗の合計27店舗を新規出店いたしました。また、岩手県の3店舗を退店し、当連結会計年度末の店舗数は321店舗（うち調剤併設型3店舗、調剤専門薬局2店舗）となりました。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は1,105億3千5百万円（前年同期比8.3%増）、営業利益は49億7千6百万円（前年同期比27.1%増）、経常利益は53億6百万円（前年同期比23.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は32億9千万円（前年同期比5.4%増）となりました。

主要なドラッグストア事業における部門別の業績は次のとおりです。

(a) ヘルス

医薬品は健康食品、消毒薬等が伸張し、衛生用品ではマスク、介護用品等が伸張いたしました。調剤も堅調に推移いたしました。その結果、売上高は前年同期比7.8%増加し、231億9百万円となりました。

(b) ビューティ

化粧品は男性化粧品等が伸張し、トイレタリーではハンドソープ、ヘアケアやオーラルケア等が伸張いたしました。その結果、売上高は前年同期比1.0%増加し、166億9千万円となりました。

(c) ホーム

日用品は洗剤や家庭紙、ゴミ袋等が伸張し、衣料品ではエコバッグ等が伸張いたしました。バラエティ部門はペット関連商品等が伸張いたしました。その結果、売上高は前年同期比11.9%増加し、232億4千4百万円となりました。

(d) フード

食品は加工食品、日配品等が伸張し、酒類ではビール、酎ハイ等が伸張いたしました。その結果、売上高は前年同期比9.8%増加し、472億6千9百万円となりました。

ロ. 財政状態

(資産)

当連結会計年度末の資産合計は、606億3千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ103億9千3百万円の増加となりました。

流動資産は296億2千万円となり、前連結会計年度末に比べ76億3千万円増加しました。主な増加要因は、現金及び預金が71億7千8百万円増加、新規出店等に伴う商品の増加が27億1千6百万円あったことがあげられます。

固定資産は310億1千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ27億6千2百万円増加しました。主な増加要因は、新規出店に伴う建物等の有形固定資産の増加が24億9千7百万円あったことがあげられます。

(負債)

当連結会計年度末の負債合計は、356億1千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ75億3千6百万円の増加となりました。

流動負債は208億8千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億8千3百万円減少しました。主な減少要因は、短期借入金の減少が14億円あったことがあげられます。

固定負債は147億2千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ85億2千万円増加しました。主な増加要因は、長期借入金が79億6千万円増加したことがあげられます。

(純資産)

当連結会計年度末の純資産合計は、250億2千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ28億5千6百万円の増加となりました。主な増加要因は、利益剰余金の増加28億5千6百万円があげられます。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて71億7千8百万円増加し、91億3千7百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローとそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は52億1千万円（前年同期は57億7千1百万円の収入）となりました。これは、税金等調整前当期純利益が46億8千2百万円、減価償却費が23億8千6百万円ありましたが、たな卸資産の増加額が27億1千万円あったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は49億8千1百万円（前年同期は52億5千4百万円の支出）となりました。これは、主に新規出店に伴う有形固定資産の取得による支出が42億5千5百万円あったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は69億4千9百万円（前年同期は6億8千5百万円の収入）となりました。これは、長期借入れによる収入が120億円ありましたが、長期借入金の返済による支出が31億7千7百万円あったことや配当金の支払額が4億3千4百万円あったこと等によるものであります。

③ 仕入及び販売の状況

当社グループは、ドラッグストア事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいことから、ドラッグストア事業における部門別及び地域別の仕入及び販売の状況を記載しております。

イ. 仕入実績

当連結会計年度における部門別仕入実績を示すと、次のとおりであります。

部門別	2020年2月期 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)		2021年2月期 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)		前年同期比 (%)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	
ヘルス	14,557	18.2	16,511	18.9	+13.4
ビューティ	12,366	15.4	12,270	14.0	△0.8
ホーム	17,053	21.3	19,239	22.0	+12.8
フード	36,075	45.1	39,350	45.1	+9.1
合計	80,052	100.0	87,371	100.0	+9.1

ロ. 販売実績

(a) 部門別販売実績

当連結会計年度における部門別販売実績を示すと、次のとおりであります。

部門別	2020年2月期 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)		2021年2月期 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)		前年同期比 (%)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	
ヘルス	21,431	21.1	23,109	20.9	+7.8
ビューティ	16,533	16.2	16,690	15.1	+1.0
ホーム	20,765	20.4	23,244	21.1	+11.9
フード	43,054	42.3	47,269	42.9	+9.8
合計	101,784	100.0	110,314	100.0	+8.4

(b) 地域別販売実績

当連結会計年度における地域別販売実績を示すと、次のとおりであります。

地域別	2020年2月期 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)		2021年2月期 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)		前年同期比 (%)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	
青森県	13,781	13.5	15,345	13.9	+11.3
秋田県	12,724	12.5	14,463	13.1	+13.7
岩手県	38,467	37.8	39,261	35.6	+2.1
宮城県	26,586	26.1	28,738	26.1	+8.1
山形県	9,377	9.2	10,332	9.3	+10.2
福島県	847	0.9	2,173	2.0	+156.6
合計	101,784	100.0	110,314	100.0	+8.4

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

① 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、新規出店及び既存店の伸張により売上高1,105億3千5百万円、営業利益49億7千6百万円、経常利益53億6百万円、親会社株主に帰属する当期純利益32億9千万円となりました。

経営成績に重要な影響を与える要因として、小売業界におきましては、業種業態を超えた競争が熾烈化し、価格競争力や利便性等、顧客サービスがより重要視されてきております。

このような中、当社グループは「地域の皆様の美と健康と豊かな暮らしに貢献する」ことを使命とし、日常生活に密着した品揃えの充実と低価格商品の販売強化を図りながら、「小商圏バラエティ型コンビニエンス・ドラッグストア」の展開により、東北エリアの一層のドミナント化を推進してまいります。

② キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は91億3千7百万円となりました。

当社グループの主な資金需要は、新規出店等に係る設備投資資金があり、資金の源泉は、営業活動によるキャッシュ・フローによる収入のほか、金融機関からの借入れによる調達等となります。

なお、当連結会計年度のキャッシュ・フローの詳細は「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況分析 (1) 経営成績等の状況の概況 ② キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

③ 重要な会計方針及び見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、必要と思われる見積りは合理的な基準に基づいて実施しております。詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおりであります。

当社グループは、税効果会計、固定資産の減損会計、引当金の計上などに関して、過去の実績や当該取引の状況に照らして、合理的と考えられる見積り及び判断を行い、その結果を資産・負債の帳簿価額及び収益・費用の金額に反映して連結財務諸表を作成しておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に関する会計上の見積りについては、「第5 経理の状況」の追加情報に記載しております。

連結財務諸表の作成に当たって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは以下のとおりであります。

(固定資産減損)

当社グループは、重要な店舗資産を有しており営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループについては回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。回収可能額の算定にあたっては、決算時点で入手可能な情報や資料に基づき合理的に判断しておりますが、将来の不確実な経済条件の変動により、利益計画の見直しが必要となった場合、翌連結会計年度以降の連結財務諸表において追加の減損損失が発生する可能性があります。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資額は、有形固定資産4,255百万円、無形固定資産79百万円、敷金及び保証金451百万円等の合計4,981百万円となりました。その主なものは、27店舗の新店設備投資であります。

なお、当社グループは、ドラッグストア事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいことから、セグメントの名称の記載は省略しております。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

該当事項はありません。

(2) 国内子会社

2021年2月28日現在

会社名	事業所所在地店舗数	設備の内容	帳簿価額 (百万円)							従業員数 (名)
			建物	構築物	機械及び装置	工具、器具及び備品	土地 (面積㎡)	リース資産	合計	
株式会社 薬王堂	青森県 47店舗	販売設備	2,808	717	26	144	— (—) [184,092.70]	70	3,767	89 [318]
	秋田県 49店舗	販売設備	3,347	846	22	130	— (—) [194,966.78]	130	4,478	97 [309]
	岩手県 104店舗	販売設備 及び 調剤施設	4,158	955	58	220	466 (7,460.91) [396,216.59]	138	5,998	248 [696]
	宮城県 76店舗	販売設備	4,365	1,234	42	181	212 (6,697.95) [284,281.47]	118	6,154	175 [527]
	山形県 33店舗	販売設備	2,148	553	21	102	— (—) [115,386.45]	25	2,850	86 [187]
	福島県 12店舗	販売設備	964	371	4	43	— (—) [38,568.52]	117	1,502	46 [41]

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
 2. 土地の面積の〔 〕書は外書きで賃借中のものを記載しております。
 3. 従業員数の〔 〕書は外書きで臨時社員（契約社員・パート・アルバイト）（1日8時間換算）の期中平均雇用人員を記載しております。
 4. リース契約による主な賃借設備は次のとおりです。なお、リース契約件数が多く、多岐にわたるうえ単位も一律でないため、数量の記載は省略しております。

会社名	内容	リース期間	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)	備考
株式会社 薬王堂	店舗土地 ・建物他	主として20年	780	2,209	オペレーティング ・リース

3 【設備の新設、除却等の計画】

2021年2月28日現在における設備計画の主なものは次のとおりであります。

なお、当社グループは、ドラッグストア事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいことから、セグメントの名称の記載は省略しております。

(1) 重要な設備の新設等

2021年2月28日現在

会社名	事業所所在地 店舗数	設備の内 容	投資予定額		資 金 調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の 売場面積 (㎡)
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
株式会社 薬王堂	青森県 4店舗	販売設備	968	134	自己資金 及び借入金	2020年11月 ～ 2021年7月	2021年3月 ～ 2021年11月	5,940.0
	秋田県 9店舗	販売設備	1,665	462	自己資金 及び借入金	2020年10月 ～ 2021年5月	2021年3月 ～ 2021年9月	8,728.5
	岩手県 8店舗	販売設備	1,402	840	自己資金 及び借入金	2020年11月 ～ 2021年4月	2021年3月 ～ 2021年8月	7,920.0
	宮城県 4店舗	販売設備	667	4	自己資金 及び借入金	2020年12月 ～ 2021年6月	2021年4月 ～ 2021年10月	3,960.0
	山形県 6店舗	販売設備	1,130	191	自己資金 及び借入金	2020年11月 ～ 2021年7月	2021年3月 ～ 2021年11月	5,940.0
	福島県 9店舗	販売設備	1,487	278	自己資金 及び借入金	2020年10月 ～ 2021年7月	2021年3月 ～ 2021年11月	7,920.0
合計			7,321	1,911				40,408.5

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
2. 投資予定額には、敷金及び保証金を含めております。

(2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	61,200,000
計	61,200,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2021年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (2021年5月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可 金融商品取引業協会名	内容
普通株式	19,740,219	19,740,219	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	19,740,219	19,740,219	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年9月2日(注)	19,740,219	19,740,219	100	100	25	25

(注) 発行済株式総数並びに資本金及び資本準備金の増加は、2019年9月2日に単独株式移転により当社が設立されたことによるものであります。

(5) 【所有者別状況】

2021年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の 状況(株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	26	24	72	116	6	9,156	9,400	—
所有株式数 (単元)	—	38,463	2,919	76,387	30,741	6	48,848	197,364	3,819
所有株式数 の割合(%)	—	19.49	1.48	38.70	15.58	0.00	24.75	100.00	—

(6) 【大株主の状況】

2021年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
株式会社TKコーポレーション	岩手県紫波郡矢巾町大字白沢第5地割1 16番地	7,584,000	38.42
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	2,194,400	11.12
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HOWALD-HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	780,000	3.95
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	737,800	3.74
薬王堂ホールディングス従業員持株会	岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第3地割 426	664,800	3.37
西郷 辰弘	岩手県紫波郡	498,000	2.52
西郷 喜代子	岩手県紫波郡	498,000	2.52
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	320,930	1.63
BBH FOR GRANDEUR PEAK GLOBAL OPPORTUNITIES FUND (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	1290 BROADWAY STE 1100 DENVER COLORADO 80203 (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事業部)	305,700	1.55
BBH FOR GRANDEUR PEAK INTERNATIONAL OPPORTUNITIES FUND (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	1290 BROADWAY STE 1100 DENVER COLORADO 80203 (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事業部)	250,200	1.27
計	—	13,833,830	70.08

- (注) 1. 株式会社日本カストディ銀行の所有株式の内訳は、(信託口) 1,568,600株、(信託口1) 111,500株、(信託口2) 85,200株、(信託口4) 29,000株、(信託口5) 136,100株、(信託口6) 119,900株、(信託口7) 25,300株、(信託口9) 58,200株、(信託A口) 13,100株、(信託B口) 1,900株、(証券投資信託口) 39,300株、(年金特金口) 200株、(年金信託口) 6,100株であります。
2. 2019年9月20日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、レオス・キャピタルワークス株式会社が2019年9月13日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2021年2月28日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
レオス・キャピタルワークス株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目11番1号	1,256,300	6.36

3. 2020年7月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、SMBC日興証券株式会社及びその共同保有者である三井住友DSアセットマネジメント株式会社が2020年7月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2021年2月28日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
SMBC日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内三丁目3番1号	33,200	0.17
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	東京都港区虎ノ門一丁目17番1号 虎ノ門ヒルズビジネスタワー26階	1,108,500	5.62

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2021年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,736,400	197,364	—
単元未満株式	普通株式 3,819	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	19,740,219	—	—
総株主の議決権	—	197,364	—

② 【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社は、将来の事業展開の促進及び経営基盤の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施することを基本方針としております。内部留保資金につきましては、収益性の一層の向上を図るため、店舗の新設等の設備投資資金として有効に活用してまいります。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としており、配当の決定機関は株主総会であります。また、取締役会の決議により中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

上記の基本方針に基づき、当事業年度の1株当たりの期末配当金は、年間23円といたしました。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
2021年5月26日 定時株主総会決議	454	23

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、コーポレート・ガバナンスの基本方針として、株主をはじめお客様や従業員及び取引先、更には地域社会などすべてのステークホルダーにとって企業価値を最大化すること、企業活動の透明性を確保することを掲げており、その実現のためにコーポレート・ガバナンスの確立が不可欠と考えております。当社では、法令・社会規範・社会通念・倫理あるいは社内規程などの観点から内部牽制が組織全体にわたって機能しているかに重点をおき、適正かつ迅速な意思決定のもと経営のチェック機能を強化してまいります。

② 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は会社法による法定機関として、株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人を設置しております。また、コーポレート・ガバナンスの更なる充実を図るため、取締役会の諮問機関として指名報酬委員会を設置しております。

イ. 取締役会

当社の取締役会は、代表取締役社長 西郷辰弘を議長とし、常勤取締役4名（西郷辰弘、西郷喜代子、小笠原康浩、西郷孝一）及び非常勤の社外取締役3名（小原公一、片野圭二、栗岡大介）で構成され、会社の経営上の意思決定機関として、取締役会規程に則って、経営方針や事業計画などの重要事項の審議及び意思決定を行うほか、取締役による職務執行を相互監視しております。取締役会は原則月1回定例開催しております。取締役会には、取締役のほか監査役も出席し、必要な意見を述べ取締役の職務執行の監督にあっております。

ロ. 監査役及び監査役会

当社の監査役会は、坂本篤（常勤）、下河原勝（社外監査役）、鎌田英樹（社外監査役）の常勤監査役1名及び社外監査役2名で構成されており、監査役会が定めた監査役監査基準に則り、監査方針を決定し、取締役の職務の執行を監査しております。監査役会は原則月1回定例開催されており、監査役より監査内容の報告を受けております。なお、法令に定める監査役の数に満たない場合には備え、補欠監査役1名を選任しております。

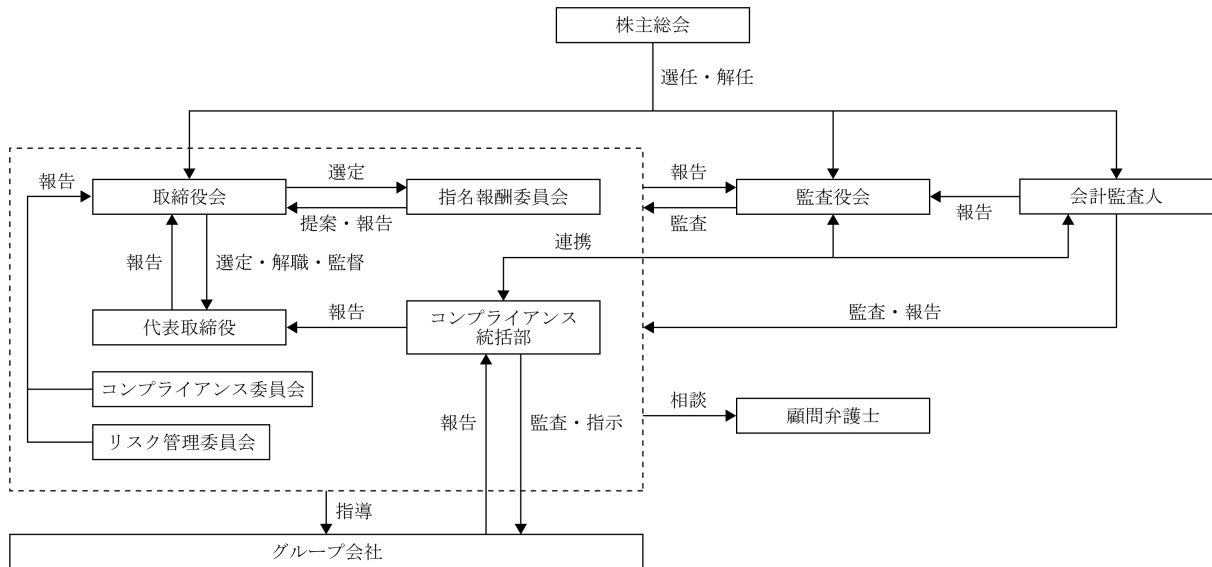
ハ. 会計監査人

当社は会計監査人として有限責任監査法人トーマツを選任し、関係法令に則り公正な会計監査を行っております。

ニ. 指名報酬委員会

当社の指名報酬委員会は、委員長及び過半数を独立社外取締役とする委員3名以上で構成されており、指名報酬委員会規程に則り、取締役の選定及び報酬に関して審議を行い取締役会に提案または意見を報告いたします。指名報酬委員会は、予め定める年間スケジュールによるほか、必要に応じて随時開催します。

当社の企業統治の体制を図式化すると、以下のとおりです。



ホ. 当該体制を採用する理由

当社は、上記の体制及びその運用が、当社並びに当社子会社の事業内容や事業形態を鑑みて、企業統治を実効的に機能させる上で有効であると判断し、現在の体制を採用しております。

③ 企業統治に関するその他の事項

〈内部統制システムの整備の状況〉

内部統制システムの整備の状況に関しては、取締役会決議により、次のとおり「内部統制システム構築に関する基本方針」を定めております。

1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

コンプライアンス体制に係る規程を制定し、取締役が率先垂範して法令等を遵守するとともに、使用人の職務の執行が法令や定款に適合することを確保し、法令遵守を企業活動の前提とします。

コンプライアンス体制の推進を組織的かつ永続的に運営するための常設の機関として、代表取締役社長を委員長とするコンプライアンス委員会を設置し、法令遵守体制の整備と遵守状況の把握を行い、結果を取締役に報告する体制を構築します。

また、内部通報制度として、コンプライアンス・ホットラインを設置し、全役職員より法令違反等に関する相談や通報を受け付ける体制を整備します。

2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

稟議規程及び文書管理規程に従い、取締役の職務執行に係る情報を文書又は電磁的媒体（以下、文書等という）に適切に記録し、保存します。取締役及び監査役は、文書管理規程により、常時、これらの文書等を閲覧できるものとします。

3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

事業を取り巻く様々なリスクに対応するために「リスク管理規程」を定め、リスク管理体制を整備するとともに、リスク管理委員会を設置してリスクの分析、評価及び対応状況を定期的に確認し、必要な対策を講じます。

また、重大事故、災害など緊急を要するリスクが発生した場合は、「リスク管理規程」に基づいて緊急対策本部を設置し、対策本部長を中心とした情報収集並びに対応策の検討、決定及び実施などにより迅速に対応する体制を整備します。

4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は役職員が共有する全社的な目標を定め、これに基づき各部門は実施すべき具体的な行動計画を含めた目標を設定し、業務執行を行います。

5) 当社並びに子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社及びグループ会社の業務の適正については、「関係会社管理規程」に則り管理します。

子会社に関わる重要事項及び業務執行状況については、子会社の代表者または管理統括者が定期的に当社の取締役会に報告をするものとします。

コンプライアンス統括部及び当社及びグループ会社の内部監査担当部署は、管理状況及び業務活動について内部監査を実施し、内部統制システムの整備を図るものとします。

6) 監査役の職務を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項、当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

監査役は、内部監査担当部署所属の職員等（以下当該使用人）に監査業務に必要な事項を指示、命令することができます。当該使用人は監査役との協議により監査役の要望した事項の内部監査を実施し、その結果を監査役に報告します。

また、取締役は当該使用人の人事異動及び考課を行う場合には、事前に監査役会に意見を求めるものとします。

7) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制及び当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

取締役及び使用人は、監査役に対して法定の事項に加え、全社的に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況等をすみやかに報告します。報告の方法については、取締役と監査役会との協議により決定する方法によるものとします。

また、内部通報制度の運用規程に基づき、監査役に報告を行ったことを理由として報告者に対する不利な取扱いを禁止します。

8) 監査役が職務の執行について生ずる費用の前払い又は償還の手続きその他当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査役から職務の執行について所要の費用の請求を受けたときは、その費用が当該監査役の職務の執行に必要なでないと認められた場合を除き、すみやかに当該費用及びその債務を処理するものとします。

9) その他監査役が職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

監査役は業務の執行状況を把握するため、法令で定められた会議のほか、必要に応じて、重要な会議に出席し意見を述べることができます。

また、監査役会は代表取締役、会計監査人とそれぞれ定期的に意見交換会を開催するものとします。

④ 取締役の定数

当社の取締役は7名以内とする旨を定款で定めております。

⑤ 取締役の選解任の決議要件

(取締役の選任の決議要件)

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行うこととし、累積投票によらない旨を定款で定めております。

(取締役の解任の決議要件)

当社は、取締役の解任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

⑥ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会の円滑な運営を図るためであります。

⑦ 自己株式の取得

当社は、自己株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款で定めております。

⑧ 中間配当に関する事項

当社は、剰余金の中間配当について、株主への機動的な利益還元を行うことを可能とするため、会社法第454条第5項に基づき、取締役会の決議によって、毎年8月31日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株主質権者に対し、剰余金の配当（「中間配当金」という。）をすることができる旨を定款で定めております。

⑨ 取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役及び監査役が期待された職務を適切に行うことができるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款で定めております。

⑩ 取締役及び監査役との責任限定契約に関する事項

当社は、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）及び監査役との間において、会社法第423条第1項の賠償責任について、200万円以上であらかじめ定めた金額又は、法令が規定する額のいずれか高い額を限度とする契約を締結することができる旨を定款で定めております。

⑪ 会計監査人との責任限定契約に関する事項

当社と会計監査人は、会社法第423条第1項の賠償責任について法令に定める要件に該当する場合は、賠償責任を限定することができる契約を締結し、当該契約に基づく賠償責任限度額は、報酬その他の職務執行の対価としての財産上の利益の額の事業年度ごとの合計額のうち最も高い額に2を乗じた額としております。

(2) 【役員の状況】

①役員一覧

男性9名 女性1名 (役員のうち女性の比率10.0%)

役職名	氏名	生年月日	略 歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	西郷 辰弘	1952年4月13日生	1976年4月 1977年7月 1978年4月 1981年2月 1991年6月 2019年3月 2019年9月	日立クレジット株式会社(現日立キャピタル株式会社)入社 株式会社小田島入社 都南プラザドラッグ創業 有限会社薬王堂設立 代表取締役 株式会社薬王堂に組織変更 同社代表取締役社長 同社代表取締役社長執行役員 (現任) 当社代表取締役社長 (現任)	(注) 5	498,000
代表取締役 副社長	西郷 喜代子	1953年9月3日生	1976年4月 1978年4月 1981年2月 1991年6月 2003年3月 2018年5月 2019年3月 2019年9月	株式会社御天気堂薬局入社 都南プラザドラッグ創業 有限会社薬王堂設立 専務取締役 株式会社薬王堂に組織変更 同社専務取締役営業担当 同社専務取締役営業本部長 同社代表取締役副社長営業本部長 同社代表取締役 副社長執行役員営業本部長 (現任) 当社代表取締役副社長 (現任)	(注) 5	498,000
常務取締役 管理部長	小笠原 康浩	1964年11月29日生	1988年2月 2005年3月 2010年7月 2014年5月 2016年5月 2017年3月 2019年3月 2019年9月	アイワ岩手株式会社入社 株式会社薬王堂入社 同社財務部長 同社取締役財務部長 同社常務取締役管理部門管掌兼財務部長 同社常務取締役管理本部長 同社取締役常務執行役員管理本部長 (現任) 当社常務取締役管理部長 (現任)	(注) 5	8,400
常務取締役 経営戦略部長	西郷 孝一	1978年11月23日生	2007年6月 2012年4月 2012年11月 2013年3月 2016年3月 2019年3月 2019年9月 2020年3月 2020年5月 2021年5月	花王株式会社入社 株式会社薬王堂入社 同社営業企画部長 同社商品部長 同社経営企画室長 同社執行役員事業戦略本部長 当社事業戦略部長 当社経営戦略部長 株式会社薬王堂常務取締役執行役員経営戦略本部長 (現任) 当社常務取締役経営戦略部長 (現任)	(注) 5	200
取締役	小原 公一	1961年5月20日生	1985年4月 2011年3月 2018年4月 2021年5月	日興証券株式会社 (現SMBC日興証券株式会社) 入社 日興証券株式会社執行役員東日本法人本部長 日興ビジネスシステムズ株式会社代表取締役社長 (現任) 当社取締役 (現任)	(注) 5	—
取締役	片野 圭二	1961年8月17日生	1984年4月 2003年5月 2016年3月 2021年5月	アルプス電気株式会社入社 株式会社アイカムス・ラボ設立 代表取締役 (現任) 株式会社TOLIMS設立 代表取締役 (現任) 当社取締役 (現任)	(注) 5	—
取締役	栗岡 大介	1985年7月28日生	2010年4月 2013年3月 2021年2月 2021年5月	岡三証券株式会社入社 レオス・キャピタルワークス株式会社入社 くりや株式会社設立 代表取締役 (現任) 当社取締役 (現任)	(注) 5	—

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤 監査役	坂本 篤	1962年10月18日生	1985年4月 株式会社東北メルコムビジネス平金入社 1997年9月 株式会社薬王堂入社 2003年3月 同社業務システム部長 2014年3月 同社経営企画室長 2016年3月 同社内部監査室長 2016年5月 同社補欠監査役 2017年5月 同社常勤監査役（現任） 2019年9月 当社常勤監査役（現任）	(注) 6	23,100
監査役	下河原 勝	1954年3月29日生	1980年9月 株式会社日盛ハウジング設立 代表取締役 1991年4月 有限会社日盛ホームサービス （現株式会社FPホームサービス）設立 代表取締役（現任） 2000年5月 株式会社薬王堂監査役 2010年12月 株式会社FPシルバーサポート設立 代表取締役（現任） 2019年9月 当社監査役（現任）	(注) 6	—
監査役	鎌田 英樹	1953年12月11日生	1978年4月 株式会社アイビーシー岩手放送入社 2011年6月 同社代表取締役社長（現任） 2014年6月 株式会社岩手日報社 社外監査役（現任） 2015年5月 株式会社薬王堂監査役 2019年9月 当社監査役（現任）	(注) 6	—
計					1,027,700

- (注) 1. 代表取締役副社長西郷喜代子は代表取締役社長西郷辰弘の配偶者であります。
2. 常務取締役経営戦略部長西郷孝一は代表取締役社長西郷辰弘の長男であります。
3. 取締役小原公一、片野圭二及び栗岡大介は、社外取締役であります。
4. 監査役下河原勝及び鎌田英樹は、社外監査役であります。
5. 取締役の任期は、2021年2月期に係る定時株主総会終結のときから2023年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
6. 監査役の任期は、当社の設立日である2019年9月2日から2023年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
7. 当社は、取締役小原公一、片野圭二及び栗岡大介、監査役下河原勝及び鎌田英樹を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。
8. 所有株式数は、2021年2月28日現在の株式数を記載しております。
9. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
中村 真二郎	1965年11月10日生	1989年4月 日興証券株式会社入社 1999年2月 北光コンサル株式会社入社 2006年9月 株式会社薬王堂入社 2013年3月 同社財務部マネジャー 2017年3月 同社財務部長（現任）	8,763

(注) 補欠監査役中村真二郎の所有株式数は、従業員持株会を通じての保有分であります。

② 社外役員の状況

イ. 人的関係、資金的関係又は取引関係その他の利害関係

当社は、社外取締役3名及び社外監査役2名を選任しております。

当社と社外取締役小原公一、片野圭二及び栗岡大介、社外監査役下河原勝及び鎌田英樹の5名との間には、人的関係、資金的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

なお、当社は、社外取締役小原公一、片野圭二及び栗岡大介、社外監査役下河原勝及び鎌田英樹の5名を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針について、特段の定めはないものの、選任にあたっては東京証券取引所が開示を求める独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

ロ. 社外役員の企業統治において果たす機能及び役割

社外取締役は、取締役会において、より客観的な立場から、会社経営者として培われた経験を生かした発言を行うことにより、重要な業務執行および法定事項についての意思決定ならびに業務執行の監督という取締役会の企業統治における機能・役割を、健全かつより高いレベルで維持することに貢献しています。

社外監査役は、長年にわたる経営者としての経験や専門性により、企業統治の仕組みとして当社が採用している監査役会の機能の充実に貢献しています。

なお、社外取締役および社外監査役と当社の間特別な利害関係はなく、必要な独立性は確保されていると考えております。

③ 社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会等への出席を通じ、直接または間接的に内部監査および会計監査の報告を受け、取締役の職務の執行状況に対して必要に応じて意見を述べることにより、これらの監査と連携の取れた監督機能を果たしております。また、取締役会の一員として、意見または助言により内部統制部門を有効に機能させることを通じて、適正な業務執行の確保を図っております。

社外監査役は、監査役会、取締役会への出席を通じ、直接または間接的に内部監査および会計監査の報告を受け、必要に応じて意見を述べることにより、監査の実効性を高めております。また、監査役は、会計監査人より監査計画について説明を受けると共に、定期的に監査結果の報告並びに監査状況の説明等を受け、情報の共有を行っております。さらに、取締役会において内部統制部門の報告に対して意見を述べ、適正な業務執行の確保を図っております。

(3) 【監査の状況】

① 監査役監査の状況

当社の監査役会は、監査役3名（うち社外監査役2名）で構成されており、監査役は毎月開催の監査役会と取締役会への出席、常勤監査役は子会社の取締役会や部長クラス以上の経営幹部が出席する部長会議へ出席し、取締役の業務執行状況を適切に監査しております。また、コンプライアンス統括部と内部監査担当と連携し、情報共有を図っております。常勤監査役の坂本篤氏は公認不正検査士(CFE)であり業務システム部長を11年、経営企画室長を2年、内部監査室長を1年経験しており業務に精通しております。社外監査役の下河原勝氏及び鎌田英樹氏は、会社経営者として幅広く高度な知見と豊富な経験を有しております。

当事業年度において当社は監査役会を合計14回開催しており、個々の監査役の出席状況は次のとおりであります。

区分	氏名	出席状況
常勤監査役	坂本 篤	14回/14回
監査役（社外）	下河原 勝	14回/14回
監査役（社外）	鎌田 英樹	14回/14回

監査役会の主な検討事項として、監査方針及び監査計画の策定、監査報告書の作成、内部統制の整備・運用状況、会計監査人の監査の方法及び結果の相当性、会計監査人の職務の遂行が適正に行われていることを確保するための体制等であります。

また、常勤監査役の活動として、業務執行取締役からの報告を受けること、子会社の部門往査や店舗往査、重要書類の閲覧・調査等の業務監査を通じて内部管理体制を検証するとともに、取締役会、監査役会での意見表明及び取締役会への出席等により取締役の職務執行の適法性と妥当性に関する監査を行っております。その他、コンプライアンス統括部と内部監査部門および会計監査人との連携を密にして情報交換を行うとともに社外取締役との定期的な意見交換を行っております。

② 内部監査の状況

内部監査については、内部監査担当（人員3名）が、業務活動が法令・定款および諸規程に準拠し、且つ経営目的達成のため合理的、効果的に運営されているか否かについて監査を実施しております。内部監査担当は監査役・会計監査人と情報の共有を行っており、必要に応じて随時協議を行い緊密な連携をとっております。

③ 会計監査の状況

a. 監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

b. 継続監査期間

2004年2月期以降

c. 監査業務を執行した公認会計士

後藤 英俊氏

宮澤 義典氏

d. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士5名、会計士試験合格者等1名が当社の財務書類の監査業務に従事しております。

e. 監査法人の選定方針と理由

当社は、会計監査人の選定に関して、当社の事業活動に対応して効率的な監査業務を実施することができる一定の規模とグローバルなネットワークを持つこと、高い品質管理体制が整備されていること、監査日数、監査期間及び具体的な監査実施要領並びに監査費用が合理的かつ妥当な水準であることなどを総合的に判断します。また、日本公認会計士協会の定める「独立性に関する指針」に基づき独立性を有することを確認しています。

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選任した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査法人の評価については、日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役の実務指針」を踏まえ行っており、この結果を監査役会において監査役全員で評価することとしております。評価の結果、監査法人の監査活動は適切であると判断しております。

④ 監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	7	—	13	—
連結子会社	24	—	21	—
計	32	—	34	—

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク（デロイトトーマツグループ）に対する報酬（a.を除く）

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	—	—	—	—
連結子会社	—	21	—	4
計	—	21	—	4

(前連結会計年度)

連結子会社における非監査業務の内容は、当社監査公認会計士と同一のネットワークに属しているデロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社に対して、持株会社化に関するアドバイザー業務の報酬として総額21百万円を支払っております。

(当連結会計年度)

連結子会社における非監査業務の内容は、当社監査公認会計士と同一のネットワークに属しているデロイトトーマツ税理士法人に対して、税務に関するアドバイザー業務の報酬として総額4百万円を支払っております。

c. その他重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

特段の方針は設けておりませんが、当社の規模、業務の特性及び監査日数などを勘案した合理的な見積りに基づき、監査公認会計士等と協議の上、監査役会の同意を得て決定しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、取締役、社内関係部署及び会計監査人からの必要な資料の入手や報告の聴取を通じて、会計監査人の監査計画の内容、従前の事業年度における職務執行状況や報酬見積りの算出根拠などを検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

① 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役及び監査役の報酬等につきましては、株主総会で決議された報酬限度額の範囲内で、役職、業績等を勘案して決定しております。

取締役及び監査役の報酬額は、2020年5月27日開催の第1回定時株主総会決議において決定しており、取締役については年額400百万円以内、監査役については年額100百万円以内と定められております。

また当社は、役員の報酬等の決定に関する手続きの公正性、透明性、客観性を強化することを目的として、2021年5月26日開催の取締役会で、取締役会の任意の諮問機関として指名報酬委員会の設置を決議いたしました。過半数の委員を独立社外取締役で構成する指名報酬委員会は、取締役会の諮問に基づき、取締役等の報酬等に関し審議をし、取締役会に対して答申を行います。取締役会は、指名報酬委員会の答申内容を尊重し、報酬に関する基本方針、取締役の個別報酬等を決定いたします。

② 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)	対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	
取締役 (社外取締役を除く)	124	124	4
監査役 (社外監査役を除く)	10	10	1
社外役員	8	8	4

③ 役員ごとの連結報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式に、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式に区分しております。

② 株式会社薬王堂における株式の保有状況

当社及び連結子会社のうち、投資株式の貸借対照表計上額(投資株式計上額)が最も大きい会社(最大保有会社)である株式会社薬王堂については以下のとおりであります。

a. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

イ. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

取引先との関係の構築・維持・強化や業務提携等において、当社の中長期的な企業価値向上に資すると判断した場合に、必要に応じて、当該取引先の株式を取得・保有することとしております。また保有する株式について、中長期的な観点から継続保有の合理性・必要性を取締役会で定期的に検証し、保有意義が乏しいと総合的に判断した場合は取引先との対話を深めながら当該株式の売却を進めていきます。

ロ. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	4	130
非上場株式以外の株式	3	5

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	2	129	取引関係強化のため
非上場株式以外の株式	—	—	—

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

ハ. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由 (注)	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
株式会社岩手銀行	1,000	1,000	取引関係の維持強化のため。	有
	2	2		
大正製薬ホールディングス株式会社	330	330	取引関係の維持強化のため。	無
	2	2		
株式会社東北銀行	1,100	1,100	取引関係の維持強化のため。	有
	1	1		

(注) 当社は、特定投資株式における定量的な保有効果の記載が困難ではありますが、個別の保有意義を検証しており、現状保有する特定投資株式はいずれも保有に伴う経済的合理性等を総合的に勘案し、適正な範囲内で保有しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

b. 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

c. 当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

d. 当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

③ 提出会社における株式の保有状況

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。
- (3) 前連結会計年度の連結財務諸表は、単独株式移転により完全子会社となった株式会社薬王堂の連結財務諸表を引き継いで作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2020年3月1日から2021年2月28日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2020年3月1日から2021年2月28日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同機構主催の研修等へ参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当連結会計年度 (2021年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,958	9,137
売掛金	1,042	969
商品	15,104	17,821
未収還付法人税等	2,248	73
その他	1,634	1,618
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	21,990	29,620
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※ 32,018	※ 35,672
減価償却累計額	△11,560	△13,200
建物及び構築物（純額）	20,457	22,471
機械及び装置	※ 294	※ 295
減価償却累計額	△95	△119
機械及び装置（純額）	199	176
工具、器具及び備品	※ 4,053	※ 4,137
減価償却累計額	△2,927	△3,313
工具、器具及び備品（純額）	1,125	823
土地	679	679
リース資産	192	646
減価償却累計額	△17	△45
リース資産（純額）	175	601
建設仮勘定	400	783
有形固定資産合計	23,037	25,535
無形固定資産	375	333
投資その他の資産		
投資有価証券	405	135
繰延税金資産	1,425	1,713
敷金及び保証金	2,612	2,898
その他	396	400
投資その他の資産合計	4,840	5,148
固定資産合計	28,254	31,017
資産合計	50,244	60,637

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当連結会計年度 (2021年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	11,946	12,578
短期借入金	1,400	—
1年内返済予定の長期借入金	2,262	3,124
リース債務	22	63
未払法人税等	758	1,141
賞与引当金	465	508
ポイント引当金	489	578
店舗閉鎖損失引当金	60	103
その他	4,463	2,787
流動負債合計	21,868	20,885
固定負債		
長期借入金	4,550	12,511
リース債務	174	603
資産除去債務	1,291	1,419
その他	190	192
固定負債合計	6,206	14,726
負債合計	28,075	35,612
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	2,311	2,311
利益剰余金	19,759	22,616
株主資本合計	22,170	25,027
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1	△1
その他の包括利益累計額合計	△1	△1
純資産合計	22,168	25,025
負債純資産合計	50,244	60,637

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	当連結会計年度 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)
売上高	102,017	110,535
売上原価	78,590	84,878
売上総利益	23,426	25,657
販売費及び一般管理費		
ポイント引当金繰入額	489	578
給料	6,241	6,676
賞与引当金繰入額	465	508
退職給付費用	87	94
賃借料	2,506	2,694
減価償却費	2,224	2,386
その他	7,497	7,742
販売費及び一般管理費合計	19,512	20,680
営業利益	3,914	4,976
営業外収益		
受取利息	23	22
受取事務手数料	137	152
固定資産受贈益	100	44
受取手数料	47	47
古紙売却収入	51	33
その他	35	59
営業外収益合計	396	359
営業外費用		
支払利息	14	28
その他	0	0
営業外費用合計	14	29
経常利益	4,295	5,306
特別利益		
受取保険金	※1 141	—
特別利益合計	141	—
特別損失		
減損損失	※2 13	※2 167
固定資産除却損	—	11
投資有価証券評価損	—	400
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	44
災害による損失	※1 111	—
特別損失合計	124	623
税金等調整前当期純利益	4,312	4,682
法人税、住民税及び事業税	1,372	1,680
法人税等調整額	△183	△287
法人税等合計	1,189	1,392
当期純利益	3,122	3,290
非支配株主に帰属する当期純利益	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	3,122	3,290

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	当連結会計年度 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)
当期純利益	3,122	3,290
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1	0
その他の包括利益合計	※ △1	※ 0
包括利益	3,120	3,290
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,120	3,290
非支配株主に係る包括利益	—	—

③ 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,080	1,331	17,051	△0	19,462
当期変動額					
株式移転による変動	△980	980			—
剰余金の配当			△414		△414
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,122		3,122
自己株式の処分		△0		0	—
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	△980	979	2,708	0	2,708
当期末残高	100	2,311	19,759	—	22,170

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	0	0	19,462
当期変動額			
株式移転による変動			—
剰余金の配当			△414
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,122
自己株式の処分			—
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	△1	△1	△1
当期変動額合計	△1	△1	2,706
当期末残高	△1	△1	22,168

当連結会計年度(自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	100	2,311	19,759	—	22,170
当期変動額					
剰余金の配当			△434		△434
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,290		3,290
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	2,856	—	2,856
当期末残高	100	2,311	22,616	—	25,027

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	△1	△1	22,168
当期変動額			
剰余金の配当			△434
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,290
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	0	0	0
当期変動額合計	0	0	2,856
当期末残高	△1	△1	25,025

④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	当連結会計年度 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	4,312	4,682
減価償却費	2,224	2,386
減損損失	13	167
災害損失	111	—
賞与引当金の増減額 (△は減少)	29	42
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	120	88
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△10	43
受取利息及び受取配当金	△23	△22
支払利息	14	28
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	400
受取保険金	△141	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△605	73
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,696	△2,710
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,191	632
その他	590	717
小計	7,132	6,529
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△14	△28
保険金の受取額	141	—
災害損失の支払額	△37	—
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,450	△1,290
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,771	5,210
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,865	△4,255
無形固定資産の取得による支出	△158	△79
投資有価証券の取得による支出	—	△129
敷金及び保証金の差入による支出	△166	△451
その他	△63	△64
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,254	△4,981
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△200	△1,400
長期借入れによる収入	4,000	12,000
長期借入金の返済による支出	△2,692	△3,177
リース債務の返済による支出	△6	△38
配当金の支払額	△414	△434
財務活動によるキャッシュ・フロー	685	6,949
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,202	7,178
現金及び現金同等物の期首残高	756	1,958
現金及び現金同等物の期末残高	※1 1,958	※1 9,137

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 2社

連結子会社の名称 株式会社薬王堂
Medica株式会社

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日と連結決算日は一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

② たな卸資産

商 品

売価還元法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）によっております。

ただし、物流センター保管商品及び調剤薬品については総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3年～34年

機械及び装置 17年

工具、器具及び備品 3年～20年

② 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

③ ポイント引当金

将来のポイント使用に備えるため、未使用のポイント残高に対して、過去の使用実績を基礎として将来使用されると見込まれる金額を計上しております。

④ 店舗閉鎖損失引当金

店舗の閉店に伴い発生する損失に備えるため、合理的に見込まれる閉店関連損失見込額を計上しております。

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

1. 収益認識に関する会計基準等

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2023年2月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

2. 会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準

- ・「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 2020年3月31日)

(1) 概要

関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に、採用した会計処理の原則及び手続の概要を示すことを目的とするものです。

(2) 適用予定日

2022年2月期の年度末より適用予定であります。

3. 会計上の見積りの開示に関する会計基準

・「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）

(1) 概要

当年度の財務諸表に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌年度の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目における会計上の見積りの内容について、財務諸表利用者の理解に資する情報を開示することを目的とするものです。

(2) 適用予定日

2022年2月期の年度末より適用予定であります。

(追加情報)

新型コロナウイルスの感染拡大の完全収束には一定の期間を要すると考えられ、企業活動の抑制、雇用情勢の悪化等による景気後退が見込まれます。現時点での当社グループへの影響は限定的ですが、今後さらに新型コロナウイルス感染拡大および、現在の状況が長期化した場合には、当社の固定資産の減損等の重要な会計上の見積りに影響を及ぼす可能性があります。

(連結貸借対照表関係)

※ 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当連結会計年度 (2021年2月28日)
建物及び構築物	23 百万円	23 百万円
機械及び装置	0 "	0 "
工具、器具及び備品	16 "	16 "
合 計	40 百万円	40 百万円

(連結損益計算書関係)

※1 受取保険金及び災害による損失

前連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

2019年10月に発生した台風19号による被害に伴う建物等店舗設備の原状復旧費用及び棚卸資産の損害等として災害による損失111百万円を計上しております。また、これに伴い受領した損害保険金を受取保険金として計上しております。

当連結会計年度(自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)

該当事項はありません。

※2 減損損失

前連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額 (百万円)
岩手県紫波郡	販売設備	建物及び構築物等	13

当社グループはキャッシュ・フローを生み出す最小単位として主として店舗を基本単位としグループピングしております。当連結会計年度において、閉店の意思決定を行った店舗について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

減損損失の内訳は以下のとおりです。

固定資産の種類	金額 (百万円)
建物	12
構築物	0
工具、器具及び備品	0
合計	13

なお、資産グループの回収可能価額は売却や他への転用が困難であるため、正味売却価額を零としております。

当連結会計年度(自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額 (百万円)
秋田県能代市	販売設備	建物及び構築物等	131
岩手県一関市	販売設備	建物及び構築物等	10
山形県南陽市	販売設備	建物及び構築物等	10
岩手県宮古市	販売設備	建物及び構築物等	7
岩手県二戸市	販売設備	建物及び構築物等	6

当社グループはキャッシュ・フローを生み出す最小単位として主として店舗を基本単位としグループピングしております。当連結会計年度において、閉店の意思決定を行った店舗、又は営業活動による損益が継続してマイナスとなる店舗等において、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

減損損失の内訳は以下のとおりです。

固定資産の種類	金額 (百万円)
建物	123
構築物	32
機械及び装置	1
工具、器具及び備品	8
その他	0
合計	167

なお、資産グループの回収可能価額は売却や他への転用が困難であるため、正味売却価額を零としております。

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	当連結会計年度 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	△1百万円	0百万円
組替調整額	— 〃	— 〃
税効果調整前	△1 〃	0 〃
税効果額	— 〃	— 〃
その他有価証券評価差額金	△1 〃	0 〃
その他の包括利益合計	△1百万円	0百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	19,741,200	—	981	19,740,219
自己株式				
普通株式(注)	981	—	981	—

(注) 自己株式の減少981株は、株式会社薬王堂の2019年8月9日の取締役会決議による自己株式の消却による減少であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

当社は、2019年9月2日に単独株式移転により設立した完全親会社であるため、配当金の支払い額は下記の完全子会社の株主総会において決議された金額であります。

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月29日 定時株主総会	普通株式 (株式会社薬王堂)	414	21	2019年2月28日	2019年5月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年5月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	434	22	2020年2月29日	2020年5月28日

当連結会計年度（自 2020年3月1日 至 2021年2月28日）

1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	19,740,219	—	—	19,740,219
自己株式				
普通株式	—	—	—	—

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年5月27日 定時株主総会	普通株式	434	22	2020年2月29日	2020年5月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の 種類	配当の原資	配当金 の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年5月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	454	23	2021年2月28日	2021年5月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	当連結会計年度 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)
現金及び預金	1,958 百万円	9,137 百万円
現金及び現金同等物	1,958 百万円	9,137 百万円

2. 重要な非資金取引の内容

(1) ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	当連結会計年度 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)
ファイナンス・リース取引に係る 資産及び債務の額	179 百万円	460 百万円

(2) 重要な資産除去債務の計上額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	当連結会計年度 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)
重要な資産除去債務の計上額	170 百万円	113 百万円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産 ドラッグストア事業における販売設備であります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当連結会計年度 (2021年2月28日)
1年以内	762百万円	836百万円
1年超	1,357百万円	1,372百万円
合 計	2,120百万円	2,209百万円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金調達については設備投資計画に従って、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

敷金及び保証金は、取引先の信用リスクに晒されております。

投資有価証券はすべて株式であり、市場価格の変動リスクに晒されていますが、四半期ごとに時価の把握を行っております。

借入金には運転資金（主として短期）及び設備投資資金（長期）に係る資金調達であり、変動金利による長期借入は行っておりません。なお、これらの債務は支払期日に支払いを実行できなくなるリスク、すなわち流動性リスクに晒されますが、各月ごとに資金計画を適宜見直すことにより、そのリスクを回避しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

敷金及び保証金について、管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

② 市場リスク（金利や市場価格等の変動リスク）の管理

当社グループは、借入金に係る支払金利の変動リスクを回避するため、長期借入金については固定金利での調達を行っております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

③ 資金調達に係る金利リスク及び流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

資金調達時には、金利の変動動向の確認又は他の金融機関との金利比較を行っております。また、各部署からの報告に基づき財務部門が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（(注2)を参照ください。）。

前連結会計年度（2020年2月29日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時 価 (百万円)	差 額 (百万円)
(1) 現金及び預金	1,958	1,958	—
(2) 投資有価証券 その他有価証券	5	5	—
(3) 敷金及び保証金	2,612	2,732	119
資 産 計	4,577	4,696	119
(1) 買 掛 金	11,946	11,946	—
(2) 長期借入金 (※)	6,812	6,819	△6
負 債 計	18,759	18,765	△6

(※) 1年以内に返済予定の長期借入金を含んでおります。

当連結会計年度（2021年2月28日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時 価 (百万円)	差 額 (百万円)
(1) 現金及び預金	9,137	9,137	—
(2) 投資有価証券 その他有価証券	5	5	—
(3) 敷金及び保証金	2,898	2,818	△80
資 産 計	12,041	11,960	△80
(1) 買 掛 金	12,578	12,578	—
(2) 長期借入金 (※)	15,635	15,530	△105
負 債 計	28,214	28,109	△105

(※) 1年以内に返済予定の長期借入金を含んでおります。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(資 産)

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 投資有価証券

投資有価証券のうち、市場性のある株式については取引所の価格によっております。

(3) 敷金及び保証金

将来キャッシュ・フローを国債の利回りで割り引いた現在価値によっております。

(負 債)

(1) 買掛金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

区分	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当連結会計年度 (2021年2月28日)
非上場株式	400百万円	130百万円

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(2) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度 (2020年2月29日)

(単位:百万円)

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
敷金及び保証金	383	768	782	679

当連結会計年度 (2021年2月28日)

(単位:百万円)

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
敷金及び保証金	329	885	816	866

(注4) 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度 (2020年2月29日)

(単位:百万円)

区分	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超
短期借入金	1,400	—	—	—	—	—
長期借入金	2,262	1,751	1,347	856	256	338
リース債務	22	22	21	21	19	88
合計	3,684	1,774	1,369	878	275	427

当連結会計年度 (2021年2月28日)

(単位:百万円)

区分	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超
長期借入金	3,124	2,720	2,229	1,628	1,586	4,346
リース債務	63	64	64	62	55	357
合計	3,187	2,784	2,293	1,691	1,642	4,703

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度 (2020年2月29日)

(単位: 百万円)

	種類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	—	—	—
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	5	7	△2
合 計		5	7	△2

(注) 上表には、時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は含めておりません。

当連結会計年度 (2021年2月28日)

(単位: 百万円)

	種類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	—	—	—
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	5	7	△2
合 計		5	7	△2

(注) 上表には、時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は含めておりません。

2. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)

当連結会計年度において、投資有価証券の非上場株式について400百万円減損処理を行っております。

時価のない株式の減損処理に当たっては、当該株式の実質価格が取得原価に比べて50%以上下落した場合には、株式の実質価格が著しく下落したと判断し、回復可能性が十分な証拠によって裏づけられる場合を除き、減損処理をしております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは確定拠出年金制度を採用しております。

2. 確定拠出制度

当社グループの確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度87百万円、当連結会計年度94百万円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当連結会計年度 (2021年2月28日)
繰延税金資産		
未払事業税	59 百万円	73 百万円
賞与引当金	142 "	155 "
店舗閉鎖損失引当金	18 "	31 "
未払役員退職金	53 "	53 "
有形固定資産	716 "	818 "
減損損失	94 "	128 "
資産除去債務	393 "	432 "
ポイント引当金	149 "	176 "
その他	99 "	157 "
繰延税金資産小計	1,726 百万円	2,027 百万円
評価性引当額	△55 "	△55 "
繰延税金資産合計	1,671 百万円	1,972 百万円
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	△244 百万円	△259 百万円
特別償却準備金	△2 "	0 "
繰延税金負債合計	△246 百万円	△259 百万円
繰延税金資産純額	1,425 百万円	1,713 百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当連結会計年度 (2021年2月28日)
法定実効税率	30.5 %	30.5 %
(調整)		
住民税均等割等	0.5 %	0.6 %
復興特区の税額控除	— %	△0.6 %
所得拡大促進税制による税額控除	△3.6 %	— %
オープンイノベーション促進税制による税額控除	— %	△0.2 %
その他	0.1 %	△0.6 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.5 %	29.7 %

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

主として、店舗施設の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を当該契約期間に応じ7年～35年と見積り、割引率は当該使用見込期間に見合う国債の流通利回りを使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	当連結会計年度 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)
期首残高	1,106 百万円	1,291 百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	170 "	113 "
時の経過による調整額	14 "	14 "
期末残高	1,291 百万円	1,419 百万円

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

当社グループはドラッグストア事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)

当社グループはドラッグストア事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループはドラッグストア事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の10%以上を占める販売先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2020年3月1日 至 2021年2月28日）

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループはドラッグストア事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の10%以上を占める販売先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

当社グループはドラッグストア事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2020年3月1日 至 2021年2月28日）

当社グループはドラッグストア事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2020年3月1日 至 2021年2月28日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2020年3月1日 至 2021年2月28日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	当連結会計年度 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)
1株当たり純資産額	1,123円03銭	1,267円73銭
1株当たり当期純利益	158円19銭	166円69銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	当連結会計年度 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	3,122	3,290
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	3,122	3,290
普通株式の期中平均株式数(株)	19,740,219	19,740,219

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,400	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	2,262	3,124	0.13	—
1年以内に返済予定のリース債務	22	63	0.58	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	4,550	12,511	0.12	2022年3月20日～ 2030年6月20日
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	174	603	0.53	2022年3月23日～ 2033年2月25日
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	8,409	16,302	—	—

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く）の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	2,720	2,229	1,628	1,586
リース債務	64	64	62	55

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が、連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	27,777	56,764	83,570	110,535
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,471	2,817	4,143	4,682
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,045	1,943	2,863	3,290
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	52.98	98.47	145.06	166.69

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	52.98	45.49	46.58	21.63

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2020年2月29日)	当事業年度 (2021年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	47	476
売掛金	※ 33	※ 33
短期貸付金	※ 1,360	※ 1,340
未収還付法人税等	2,248	73
その他	0	0
流動資産合計	3,690	1,924
固定資産		
投資その他の資産		
関係会社株式	8,554	8,554
長期貸付金	※ 8,872	※ 10,712
繰延税金資産	7	8
投資その他の資産合計	17,434	19,275
固定資産合計	17,434	19,275
資産合計	21,125	21,200
負債の部		
流動負債		
未払金	※ 52	※ 43
未払法人税等	7	13
預り金	9	9
流動負債合計	69	66
負債合計	69	66
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金		
資本準備金	25	25
その他資本剰余金	20,473	20,473
資本剰余金合計	20,498	20,498
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	457	534
利益剰余金合計	457	534
株主資本合計	21,055	21,133
純資産合計	21,055	21,133
負債純資産合計	21,125	21,200

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2019年9月2日 至 2020年2月29日)	当事業年度 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)
営業収益	※1 618	※1 825
営業費用	※1, ※2 149	※1, ※2 293
営業利益	468	531
営業外収益		
受取利息	※1 0	※1 11
その他	0	1
営業外収益合計	0	12
経常利益	468	544
税引前当期純利益	468	544
法人税、住民税及び事業税	18	33
法人税等調整額	△7	△1
法人税等合計	11	32
当期純利益	457	512

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2019年9月2日 至 2020年2月29日)

(単位：百万円)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	—	—	—	—	—	—	—	—
当期変動額								
株式移転による変動	100	25	20,473	20,498			20,598	20,598
当期純利益					457	457	457	457
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								—
当期変動額合計	100	25	20,473	20,498	457	457	21,055	21,055
当期末残高	100	25	20,473	20,498	457	457	21,055	21,055

当事業年度(自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)

(単位：百万円)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	100	25	20,473	20,498	457	457	21,055	21,055
当期変動額								
剰余金の配当					△434	△434	△434	△434
当期純利益					512	512	512	512
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								—
当期変動額合計	—	—	—	—	77	77	77	77
当期末残高	100	25	20,473	20,498	534	534	21,133	21,133

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法によっております。

2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

※ 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (2020年2月29日)	当事業年度 (2021年2月28日)
短期金銭債権	1,393 百万円	1,374 百万円
長期金銭債権	8,872 "	10,712 "
短期金銭債務	7 "	7 "
合 計	10,273 百万円	12,094 百万円

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引

	前事業年度 (自 2019年9月2日 至 2020年2月29日)	当事業年度 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)
営業取引		
営業収益	618 百万円	825 百万円
営業費用	39 "	78 "
営業取引以外の取引高		
受取利息	0 百万円	11 百万円

※2 営業費用のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2019年9月2日 至 2020年2月29日)	当事業年度 (自 2020年3月1日 至 2021年2月28日)
役員報酬	71 百万円	143 百万円
支払出向料	22 "	45 "
接待交際費	15 "	14 "
支払手数料	18 "	48 "

なお、営業費用はすべて一般管理費であります。

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

また、関連会社株式はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2020年2月29日)	当事業年度 (2021年2月28日)
繰延税金資産		
未払事業税	1百万円	2百万円
受取配当金	1 "	1 "
未払金	5 "	5 "
繰延税金資産小計	8百万円	9百万円
評価性引当額	△1 "	△1 "
繰延税金資産合計	7百万円	8百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2020年2月29日)	当事業年度 (2021年2月28日)
法定実効税率	34.3%	34.3%
(調整)		
受取配当等の益金不算入	△31.8%	△28.9%
交際費等永久に損金に算入されない項目	—%	0.4%
住民税均等割等	0.1%	0.2%
その他	△0.1%	△0.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	2.4%	6.0%

④【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

該当事項はありません。

【引当金明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	事業年度末日の翌日から3ヶ月以内
基準日	2月末日
剰余金の配当の基準日	2月末日 8月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 — 無料
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。 当社の公告掲載URLは次のとおりであります。 https://www.yakuodo-hd.co.jp/
株主に対する特典	毎年2月末日現在の株主名簿に記録された1単元(100株)以上保有されている株主様を対象に、所有株式数に応じて以下のとおり、薬王堂で利用できる当社プリペイドカード「WA!CA」の電子マネーもしくは東北地方の特産品(お米)のいずれかを贈呈いたします。 ①100株以上1,000株未満 薬王堂で利用できるプリペイドカード「WA!CA」 2,000円分 もしくは、東北地方の特産品(お米) 3kg ②1,000株以上3,000株未満 薬王堂で利用できるプリペイドカード「WA!CA」 3,000円分 もしくは、東北地方の特産品(お米) 5kg ③3,000株以上 薬王堂で利用できるプリペイドカード「WA!CA」 5,000円分 もしくは、東北地方の特産品(お米) 10kg

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

第1期(自 2019年9月2日 至 2020年2月29日) 2020年5月27日東北財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2020年5月27日東北財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第2期第1四半期(自 2020年3月1日 至 2020年5月31日) 2020年7月14日東北財務局長に提出。

第2期第2四半期(自 2020年6月1日 至 2020年8月31日) 2020年10月13日東北財務局長に提出。

第2期第3四半期(自 2020年9月1日 至 2020年11月30日) 2021年1月12日東北財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書 2020年5月29日東北財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2021年5月26日

株式会社 薬王堂ホールディングス

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
仙台事務所

指定有限責任社員 公認会計士 後 藤 英 俊 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 宮 澤 義 典 印
業務執行社員

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社薬王堂ホールディングスの2020年3月1日から2021年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社薬王堂ホールディングス及び連結子会社の2021年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

<内部統制監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社薬王堂ホールディングスの2021年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社薬王堂ホールディングスが2021年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2021年5月26日

株式会社 薬王堂ホールディングス

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
仙台事務所指定有限責任社員 公認会計士 後 藤 英 俊 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 宮 澤 義 典 印
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社薬王堂ホールディングスの2020年3月1日から2021年2月28日までの第2期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社薬王堂ホールディングスの2021年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- ※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。